

# 精神障害者に対する意識と受容

浅井 暢子

神戸大学大学院文学研究科

## 要約

■ 人々の精神障害者へのステレオタイプの認知や偏見が精神障害者や回復者の関係に影響を与えていることが示唆されている。そこで、本研究では、質問紙調査を行ない、ステレオタイプ・偏見の因子構造を分析すると共に、精神障害者受容に関わる要因について検討した。有効回答者数は大学生420名であった。ステレオタイプでは6因子、偏見では3因子を抽出し、これらの側面が細分化された構造を

持つことが示唆された。また、受容度と各因子の相関分析の結果から、精神障害者への危険性認知が低いほど精神障害者を受容している関係が見られた。この結果から、精神障害者受容との関連の強さがステレオタイプや偏見のそれぞれの側面によって異なることが示唆される。

## 目的

### <問題>

- 精神障害者ステレオタイプや偏見がどのような構造を持つのだろうか。
- その構造のどの側面が、精神障害者を受容する態度に影響を与えるのか。

これらの点については、まだ十分な検討がされていない。

### <先行研究>

- 精神障害者観が社会の精神障害者との関わりに影響を与える。 (宗像, 1984)
- 社会の精神障害者との関係形態は間接的接触が主である。 (坂本ら, 1996)



人々の精神障害者へのステレオタイプの認知や偏見が精神障害者や回復者との関係に影響を与えていることを示唆。

### <本研究の目的>

精神障害者に対する受容の規定因を探る前段階として、

- 人々のもつ精神障害に対するステレオタイプと現実場面の具体的な事象に対する偏見の因子構造を分析する。
- 抽出された因子と精神障害者への受容との関係の検討を行う。

## 方法

- 手続き:  
精神障害に関する専門教育を専攻していない学生を対象に質問紙による集団調査を実施した。
- 回答者:  
愛知学院大学・川村女子大学・順天堂大学の学生 457名。  
有効サンプル数は男性195名、女性225名、計420名(有効回答率92%)であった。

- 質問紙の内容:

### ① ステレオタイプ

坂本ら(1996)と山内(1982)の用いた形容詞をもとに予備調査を行い、その結果選択された25個の形容詞対についてどの程度あてはまるか、7段階評定で評定を求めた。

Table. 1 参照

### ② 偏見

Crocettiら(1963)と宗像(1984)が用いた項目をもとに予備調査を行ない、その結果から質問項目を作成した。  
各項目に対して「そう思う」から「そう思わない」の7段階で評定を求めた。

Table. 2 参照

### ③ 受容度

Crocettiら(1963)と中村(1962)が用いた項目と予備調査の結果をもとに精神障害者への受容度を測定する質問項目を作成した。  
各項目に対して「そう思う」から「そう思わない」の7段階で評定を求めた。

Table. 3 参照

## 結果 (Fig. 1参照)

### <構造の分析>

ステレオタイプと偏見のそれぞれの質問項目

について因子分析(主因子法・バリマックス回転)を用い、因子構造の検討を行なった。

⇒ ステレオタイプ において6因子 (Table. 1)  
偏見 において3因子 (Table. 2) を抽出した。

### <受容度との関係の分析>

ステレオタイプ・偏見の各因子と受容度間の相関係数を求め検討を行った。

⇒ ステレオタイプの危険性因子 ( $r=.36, p<.001$ )  
偏見の隔離必要性因子 ( $r=.47, p<.001$ ) で、強い相関が見られた。

## <考察>

### ① ステレオタイプ

- 精神障害者ステレオタイプは多様な側面を持つことが示唆された。

→人々が精神障害者に対して様々な面に分けて認知している。

抽出された因子構造は、坂本(1996)の研究によって示された「内的ステレオタイプ」と「社会対人ステレオタイプ」と類似する構造であった。

### ■ 先行研究と異なる点

精神障害者に対する内的ステレオタイプがより緻密な因子構造を持つことが示され、「感情」「評価」という側面が因子として見出された。

### <偏見>

- 人々の精神障害者に対する偏見が、隔離必要性と知識、社会生活適応の能力というように様々な面に細分化されていたことを示唆。

### <各因子と受容度との関係>

精神障害者への

危険性認知が低い  
隔離の必要性を低く見積もる



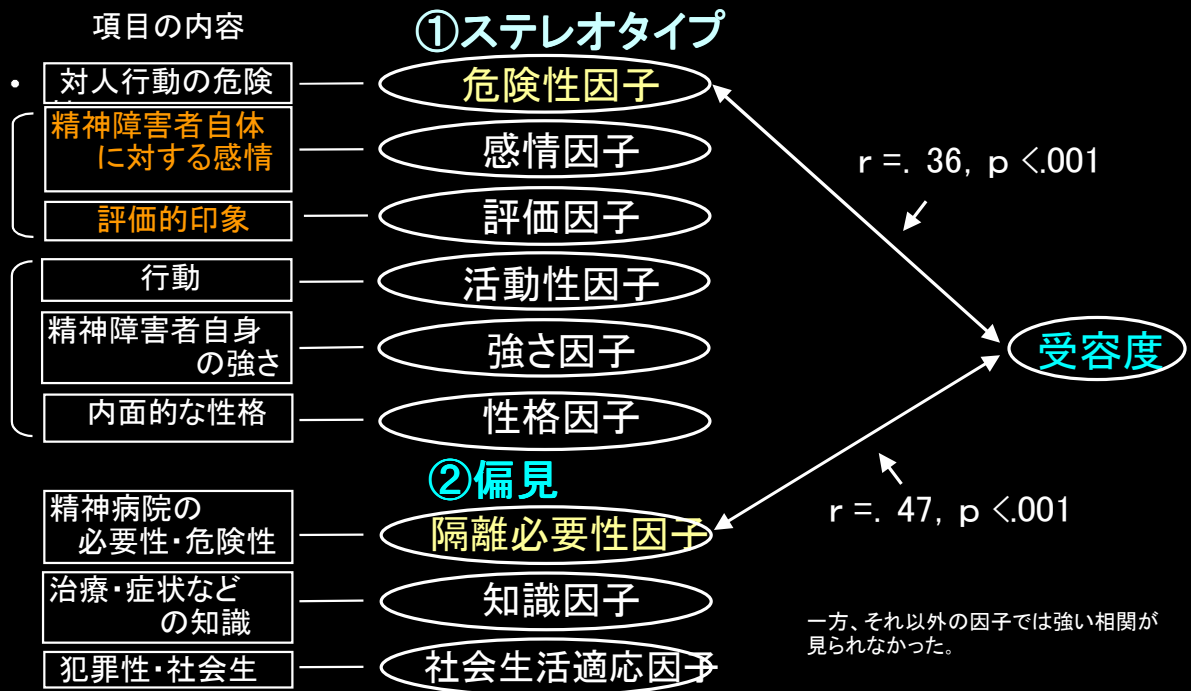
精神障害者受容

- 精神障害者受容との関連の強さがステレオタイプや偏見のそれぞれの側面によって異なることが示唆される。

## 今後の課題

1. ステレオタイプ・偏見の各因子の受容度にも与える影響をより詳しく検討。
2. 精神障害者ステレオタイプ・偏見の形成過程の検討。
3. 受容度に影響を与える他の要因の検討及び、それぞれの関係・影響過程の検討。
4. 偏見・差別を受ける側の認知。

# Fig. 1 結果



## ① ステレオタイプ

値は低得点ほど、ステレオタイプであることを示す。

Table 1 精神障害者に対するステレオタイプの因子負荷量 (バリマックス回転後)

因子と項目	平均	因子負荷量
I. 危険性 (寄与率 = 27.07%)		
荒い - 穏やかな	2.32	.82
平和的な - 暴力的な	3.17	.75
危険な - 安全な	3.02	.65
恐ろしい - やさしい	3.37	.62
II. 感情 (寄与率 = 7.85%)		
かわいらしい - にくらしい	3.09	.66
美しい - 醜い	3.50	.65
恥ずかしい - 誇らしい	2.91	.63
親切な - 不親切な	2.55	.62
不潔な - 清潔な	2.34	.55
気持ち悪い - 快い	3.18	.46
III. 活動性 (寄与率 = 5.93%)		
明るい - 暗い	1.96	.79
活発な - 不活発な	3.79	.76
閉鎖的な - 開放的な	3.06	.63
IV. 評価 (寄与率 = 5.13%)		
不幸な - 幸福な	3.81	.71
気の毒な - いいきみな	2.68	.71
V. 強さ (寄与率 = 4.80%)		
弱い - 強い	2.96	.79
意思の強い - 意思の弱い	4.59	.76
VI. 性質 (寄与率 = 4.30%)		
正直な - 不正直な	3.91	.74
強情な - 素直な	5.78	.71
自由な - 不自由な	2.57	.45

注) 因子負荷量の絶対値が .045以上の項目のみ示した。

## ② 偏見 値は低得点ほど、偏見的であることを示す。

Table 2 精神障害者に対する偏見の因子負荷量(バリマックス回転後)

質問項目	平均	因子負荷量
I. 隔離必要性(寄与率 = 25.37%)		
精神病院は高い塀と看守によって囲まれていた方がよい	6.18	.77
精神病になった人はすべて精神病院に入れられるべきだ	6.05	.70
精神病院で患者を扱う最上の方法は彼らを鍵のかかった部屋に閉じ込めておくことだ	6.44	.63
精神病になった人はすべて危険だ	5.99	.63
精神病患者は暴力的であることが多い	4.75	.47
精神病は遺伝する	2.65	-.50
II. 知識(寄与率 = 10.17%)		
症状の軽い入院患者は閉じ込めておくのではなく、開放的に病院の外に出る機会を与えた方がよい	6.64	.77
再発を防ぐにはストレスを避けることが一番である	6.03	.67
精神病は不治の病ではない	1.78	-.53
III. 社会生活適応(寄与率 = 8.68%)		
精神病患者は、精神病を患っていない人比べて犯罪を起こしやすいということはない	3.52	.66
結婚は可能である	5.50	.52
今までのように社会生活を送ることができるなら入院の必要はない	2.66	-.49
精神病患者は社会生活を営むのが難しい	4.16	-.55

注) 因子負荷量の絶対値が.045以上の項目のみ示した。

## ③ 受容度の質問項目

Table 3 受容度の質問項目

1. 行動を共にすることができる。	13. 自分の子どもが(できたら)精神病にかかったことのある人と結婚するといったら、反対する。(*)
2. 結婚することができる。	14. 精神障害者はいくら指導しても役に立たないと思う。(*)
3. 給料が妥当でならば精神病院で働いてもよい。	15. 精神病患者の福祉を考える場合、一般の人の生活にもっとゆとりができてからにすべきである。(*)
4. 恋愛関係になる。	16. 電車やバスの中で精神病患者らしい人がいると冷たい目で見てしまう。(*)
5. 一緒に席に座ることができる。	17. 精神病患者やその家族には同情するけれども、できるだけ関わることを避けたい。(*)
6. 同じ社会で生活できない。(*)	18. 仕事をこなすことのできる精神病患者には雇用就労の場を確保すべきである。
7. 一緒に食事ができる。	19. 精神病患者の一生の全てはその親や家族が面倒を見るべきである。(*)
8. 友達になれる。	20. 精神障害者と接している場合、相手を傷つけているような気がして不安である。(*)
9. 近所に住むのは避けたい。(*)	21. 自分の住む街に精神病患者の施設ができるのはよくない。(*)
10. 絶対そばに行かない。(*)	22. 精神病患者の職業訓練や社会復帰のため国や地方公共自治体はもっと費用を出すべきである。
11. 同じ職場で働くのに躊躇しない。	23. 精神病患者と出会っても自分が何をしたらよいのかわからない。(*)
12. 積極的に世話をしたい。	24. 社会生活に支障が出ない程度の軽い症状(幻覚、幻聴など)が残っていてもよいと思う。

注) \*印のついた項目は逆転項目。